

ベトナム航空 貨物PRのラッピング車が日本を走る

国内空港間のOLT輸送に投入／平野ロジが運行担当

ベトナム航空(HVN)カーゴが7月8日、東京・霞ヶ関にある同航空日本支社前で、平野ロジスティクスが所有・運行するトラックの荷台全面に「カーゴ」の特別塗装を施した96インチULD対応の10トン車(=写真)を披露した。

スズメも見紛う?リアルな青空を表現した

梅雨空を吹き飛ばすかのような鮮やかなスカイブルーの大きな車体が、霞ヶ関のオフィス街に威風堂々たる姿をあらわすと、道行く人もしばし足を止めて見入ってしまう。

トラック荷台の両サイドには、HVNが導入している最新鋭機材であるB787-9の機体(進行方向の右サイドには飛行中、左サイドにはテイクオフの場面)が描かれ、後部にはHVN Cargoのロゴがデザインされている。厳密には塗装ではなく、特殊なプリンターで印刷した高耐候性のラッピング・フィルムを貼ったもの。

今回の企画立案に携わった平野ロジスティクスの益子研一営業部長によると「あまりにもリアルな青空の再現にスズメがバードストライクを起こしたほど」だとか。ちなみに、このスズメ、大事には至らず軽い脳シントウを起こした後、無事、ホンモノ?の空に飛んでいったそうだ。

このトラックは日野自動車の96インチULD対応のローラーベッド付きで、エアサスペンション仕様のウイング車。広告面となる荷台側面のサイズは276cm(H)×975cm(W)となる。ことし7月1日から7年間の契約で平野ロジスティクスが運行することになり、おもに走る地域は成田／羽田



／横浜／中部／関西／福岡など。輸出貨物の空港間や保税上屋倉庫間のOLT輸送(地上保税輸送)や、輸入貨物の通関後配送などに利用されるとしている。

日本全国さまざまな場所に移動する「走る看板」ラッピングトラックは、いくつかのエアライン塗装の車がこれまでも走っており、街なかの特別な風景として多くの人に注目されている。この車もベトナム航空カーゴの存在感をアピールしてくれることだろう。

写真に並んだ方々は、左からウエスタン・アソシエイツ(HVNの日本地区貨物GSA)の大西知一社長、HVNのヴォー・クオック・ヒエップ日本地区貨物部長、グエン・カン・チュン日本地区総支配人、ゴー・ハー・ナム日本地区副総支配人、ウエスタン・アソシエイツの千葉豊常務、辺見信之専務、平野ロジスティクスの益子研一営業部長。

SPACE NOW



空から、海から、陸から、
きめ細かいサービスで結んでいく。

郵船ロジスティクス株式会社
www.jp.yusen-logistics.com



世界を
つなぐ、
万能物流。